



# 感染対策だより

院内感染対策委員会発行：第81号 令和8年5月発行

## 麻疹（はしか）が猛威！？

### 麻疹（はしか）とは

麻疹ウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症で、その感染力は非常に強く、免疫を持っていない人が感染すると、ほぼ100%発症し、一度感染すると一生免疫が持続すると言われています。

### 主な症状

約10日後に発熱や咳、鼻水、目の充血等の風邪のような症状が出現。2～3日熱が続いた後、39度以上の高熱と発しんが出現。

肺炎、中耳炎を合併しやすく、1,000人に1人程度の割合で脳炎が発症。死亡する割合も、先進国であっても1,000人に1人と言われている。



### 感染経路

空気感染、飛まつ感染、接触感染で、ヒトからヒトへ感染し、その感染力は非常に強い。周囲への感染可能期間は、発症日の1日前から解熱後3日間を経過するまでの期間。発症前から感染力がある。

### 予防と対策

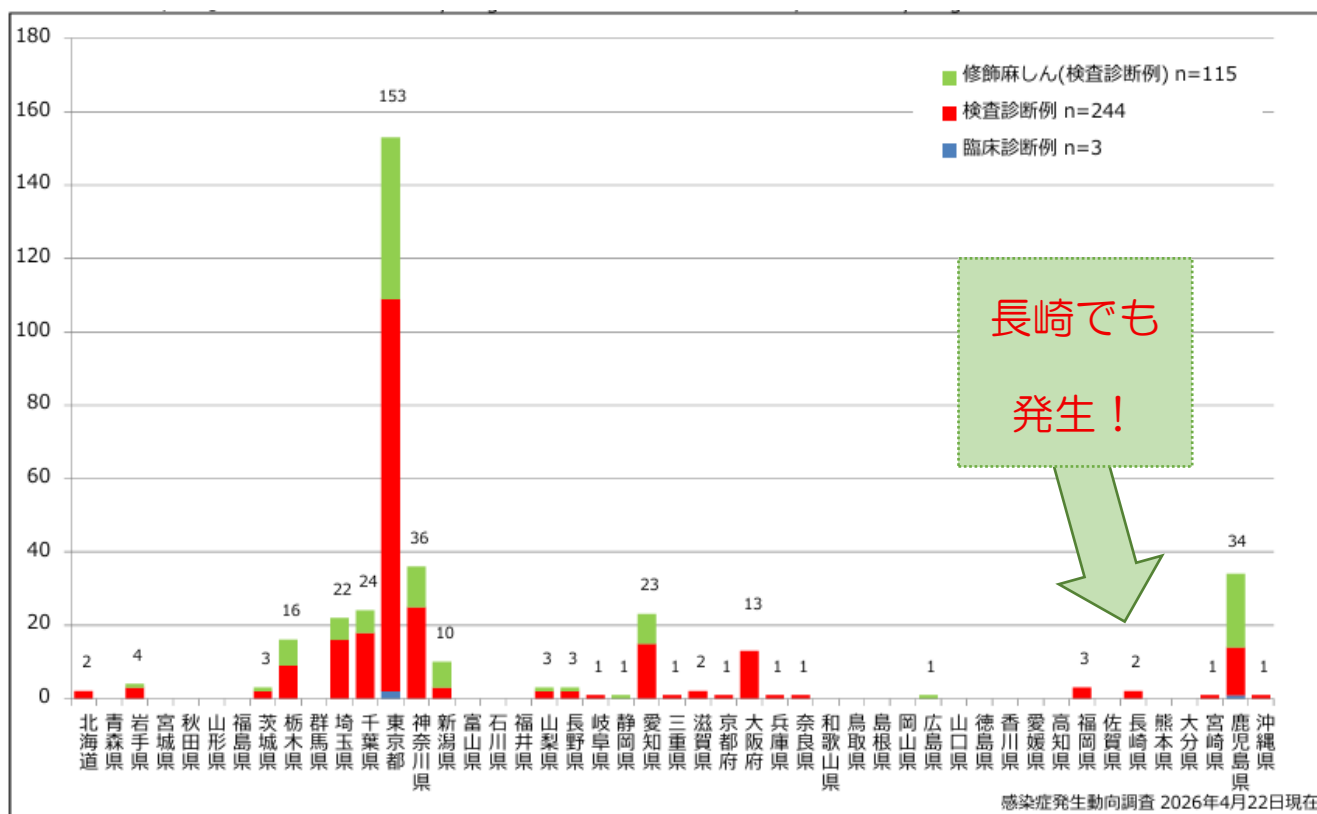
最も有効な予防法は、麻疹含有ワクチンの接種です。

ワクチン接種で、95%程度の人が免疫を獲得することができ、2回の接種を受けることでより強い免疫にするとともに、1回の接種では抗体が十分に産生されなかった方の多くに免疫をつけることができます。

体に免疫の備えができていると、ウイルスを早期に抑えこむことで、発症を防いだり（発症予防）、麻疹にかかったとしても症状が軽く、肺炎や脳炎といった重い合併症のリスクを下げたり（重症化予防）することが知られています。

抗体が十分でない方は  
早めにワクチン接種をおねがいします！

## 麻疹の流行状況



ワクチン接種により抗体価が上がっていると、罹患したとしても「修飾麻疹」といって症状が軽く済みます。

国立健康危機管理研機構から出されている病原微生物検出情報によると、日本の麻疹土着株（D5）は2010年を最後に検出されていません。2015年には日本は土着株が3年間検出されてないとしてWHOより「麻疹排除国」と認定されました。よって、現在、患者から検出されるウイルスは、すべて輸入株です。

推定感染地域が国外である症例のうち、インドネシアからの帰国・入国者による報告が11例と最多を占めています。また、ニュージーランドからの流入も7例と増加しています。その他、フィリピンや大韓民国、インド、ベトナム、シンガポールなど近隣諸国からの流入も確認されています。海外旅行に行く際はワクチンを2回打っていることを確認しましょう！

手洗いやマスクでは  
麻疹は予防できません！  
ワクチン接種を！

# 新人研修を行いました！

標準予防策や経路別予防策、職業感染対策について学びました。

標準予防策とは「すべての人の血液、汗を除く体液、分泌物、排せつ物、創傷のある皮膚、粘膜には感染性がある」として取り扱う考え方です。

その中でも手指衛生や防護具の着用はしっかり身に付けておくべき技術です。

## 手指衛生



手指消毒のつもりで実施。少し塗り残しあり。



ポスターを見ながら手も洗いました。

## 防護具の着脱



手袋の着脱の様子



エプロンの着脱の様子

# N95 マスク



N95 マスクの着用方法やユーザーシールチェックの方法を学んでいるところです。

## ユーザーシールチェックの手順

### 陽圧チェック

- ① マスクの表面を手で覆う
- ② 周囲から呼気が漏れなければOK

### 陰圧チェック

- ① 息を吸ってマスクが顔に吸い付けられればOK



使用時はユーザーシールチェックも忘れずに毎回実施しましょう。

N95 マスクのフィットテストもしました。

## N95 マスクの正しい着用



## 定量フィットテスト



着用時は上の紐は頭の上、下の紐は首の後ろに位置するようにしましょう。  
なかなか5%以下の漏れ率までフィットさせるのは難しかったです。4 東と救急外来にテストキットがあります。太ったり、痩せて顔貌が変わったときには再度チェックしましょう。